



2006 年度下期未踏ソフトウェア創造事業 採択案件評価書

1. 担当PM

大川 恵子 PM (株式会社スクールオンインターネット研究所 代表取締役所長)

2. 採択者氏名

開発代表者: 竹林 暁 (フリー(竹林システムデザイン事務所主宰))
共同開発者: 濱中 誠 (フリー)

3. プロジェクト管理組織

有限会社アカデミア

4. 委託金支払額

6,727,306 円

5. テーマ名

分布地図作成・共有 Web プラットフォーム

6. 関連Webサイト

なし

7. テーマ概要

本プロジェクトでは、Web インターフェースを利用して、各地域にどんな方言があるのか、どんな種類の建物があるのか、どんな生物がいるのかなどの分布図を簡単に作成、共有できるプラットフォームを作成する。

たとえば方言であるなら「“手袋を履く”と言うかどうか」で分布図を作ったり、生物であるなら川にメダカがいるかどうかで分布図を作ったりできるようにする。一人の調査データではカバーできる範囲に限界があるが、Web 上で複数の人間が協力しあうことによって広範囲の分布図を作ることができる。

また、各地の古い倉の写真がアップロードされていたら、江戸時代の倉の専門家が分類を試みて新しい分布図を作るといように、他の人が入力したデータに基づいて自分の解釈を反映した分布図を作成できるようにする。互いにデータを参照しあうことで、一人のデータを見ているだけではわからなかった新しい知見、学びが生まれてくることが期待できるからだ。

特定分野の専門家向けのシステムが GIS ソフトウェア上に構築されたり、また一般向けのデータが個人のサイトに載せられていることはこれまで行われてきたが、専門家と一般をむすぶような試みや分布図の情報を総合的に扱おうとする試みは今まで行われてこなかった。

本プロジェクトは、2005 年度下期採択未踏プロジェクト「Web 上での言語地図共有フレームワークの構築」の成果をもとしたものであるが、新しい機能の開発とともに、普及させて研究者や一般の方に広く使ってもらうことも重視する。これは、作成するシステムが一種の CGM (Consumer Generated Media) なので、情報集積の量がシステムの価値と魅力を決定する面を持つからである。

8. 採択理由

WEB ページを次々に見ていくことで知識を獲得するプロセスが確実に確立されている。その過程で、自分のコメントを残し、他人のコメントを見ることで、そのプロセスはさらに多くの価値が生まれる。しかし全 WEB ページにそのような機能を作成者の責任で作るのは困難である。別のレイヤーでの実現により、WEB ページを通した学びのプロセスに、新しい学びのコミュニケーションを作り出すことを期待する。

9. 開発目標

本プロジェクトは当初、「hougen.jp」の他の学問分野への応用の可能性を想定し、(1)言語事象以外のデータを取り扱えるようにすること、(2)新たな機能を追加すること、という 2 点の改良を加え、簡単に分布図を作成できるアプリケーションの開発を目的としていた。しかし、Google map の登場や、「hougen.jp」と「bunpu.jp」のデータ構造の差異を考慮し、「Web 分布図アプリケーションを作るためのアプリケーションの開

発」へと目標を変更した。

10. 進捗概要

- 11月 開発開始
- 5月 基礎的なライブラリの開発
 - WebMap ソリューションの調査
 - 中間発表会
- 8月 最終報告会
 - 成果報告書作成

11. 成果

1. 地点情報の構造化
地点の情報を地図作成者が自由に設定できる。
2. 簡易分析機能の設置
項目ごとの地点数を色で表すことで、分布の簡単な分析が可能になった。

12. プロジェクト評価

本プロジェクトは、未踏ソフトウェア創造事業として2回目の採択であったことから、開発物の実用化段階として、実証実験でのフィードバックに基づく改善を期待して採択したが、肝心の実証実験が期間内に実施されず、単なる機能追加にとどまったところが非常に残念である。また、自律的な分布図の作成とガイドマップの作成とではシステムへの要求が全く異なるところ、どちらをターゲットにしているかが不明確な点が多く、ソフトウェア全体として再設計が必要である。

13. 今後の課題

前述のとおり、ターゲットを明確にした上で再度システムの見直しを行い、実施計画書に明記されている「実証実験・データ収集」を行うことが必須である。